朝鮮幼兒保育苦心談

京口さだ子

京城幼稚園の開園式を行ひました當時は、まだよく樣子が分りませんので、すべてがてんやわんやで、毎日ヘマなことをしまいとするために並大抵の苦勞ではありませんでした。幼稚園と云ふものに對しては小使も初めて、助手も初めて、父兄も初めてです、斯う澤山の初めての人々が集つて幼稚園といふ一つの機關を運轉させて行かうとするのですから却々大變です。

共に働いてくれるべき人々は今申しました如くすべて無經驗な方々ばかり、幼兒には言語が通じない——何を何うしやうとするにも常に隔靴搔痒の感が伴はないわけには行かないのであります。

本當に最初の一ヶ月間は殆んど夢中に過して了つたと言つてもいゝ位なものでありました。しかし京城に幼稚園が出來たといふことは、かなりに社會の注意を惹き起しました。設備も整はず意に充たぬ勝ちの幼稚園は開園と共に多くの參觀者に訪れられたのであります、見るものゝ尠い京城に於ては幼稚園の新設といふことも、かなりの人氣を受けるのであります、日本人の方は隨分參觀に來られます、殊に開園の翌日には出羽大將の御一行なぞも見えられたのであります。

茲に私の非常にうれしく感じたことが一つあります。それは開園してから二ヶ月ばかり後の事でありましたが、或日幼兒達は遊園へ出て砂をもてあそんで居りました、其時近くの高等普通學校から「君が代」の合唱が聞えて來ました。さうしますと今まで砂いぢりに我を忘れてゐた幼兒達はこ

の「君が代」を聞きつけて、一齊に「君が代」を唱ひ出しました。朝鮮の幼兒は唱歌は實に上手であります、彼等の唱つた「君が代」は實に美しくありました。私はこの時パッと思つて幼兒達の顏を默つてみまもつて居りました、涙がおのづと頰を傳つて落ちて來ました、幼兒は國歌を十分に覺え込んでくれた、この可愛らしい幼兒達の口々から「君が代」を聞いた時自分の今までの少しばかりの勞苦は十分に酬いられた、—斯う考へて來ると私の心は大なる感激に充たされないわけに行きませんでした。この清いうれしさ、私は斯る經驗は幾度も經驗されるものではあるまいと、いまだに其の時の經驗をうれしく、貴いものに思つて居ります。幼兒の入園を勸誘に行つてすげなく擊退せられた時のくやしさ、なさけなさ。それを思ひ返すとき私のよろこびは更に倍加されるのでありました。私は泣きました、しかしそれは徒らなる感傷の涙と見られるにはあまりに清く、貴くあつたと飽くまでも自負したい要求に私は迫られるのであります。

一體、幼稚園の仕事には反響が誠に尠いのであります。しかし私の幼稚園に於てはその日〳〵に目に立つ反響があらはれて來るのであります。私の幼稚園では國語を敎へることが先づ第一になります、幼稚園で保育を行ふことは言ふまでもありません、それですから保育を致しますと今更らしくは申上げません、しかも私の幼稚園では保育を行ふといふよりも寧ろ國語を敎へるといふことの方に强點が置かれてあります。國語と日本の習慣を覺え込ませること、これが京城幼稚園の特徵でありまして、幼兒保育と共に最も力を注いて居る點なのであります。國語敎授といふことは前にも申しました通り幼兒の父兄の希望でもあり、又朝鮮に於て學問をするためには是非とも必要なのであります。

幼兒に日本語を敎へる爲めには先づ單語を覺え

させます、それには一々の事物に就て實物教授をするのであります、鼻を指して「ハナ」と教へます、而してその次ぎにおさらひをする時には鼻を指しながら「イゴモヤ」（これは何ですか）と聞きます、さうすると幼兒は言下にハナと答へるのであります。朝鮮の幼兒は又先天的に言語が上手であります、それ故直きに單語を覺えるのであります。

朝鮮の幼兒は家庭に居ても少しも面白いことはないのであります、何故と申しますに朝鮮の家庭では老人本位でありますから子供なぞにあまり注意しません、それで子供は大抵三疊位の部屋へ遊び友達も、おもちやもなしに棄て置かれるのであります、それ故彼等は實に退窟なのであります、それで彼等は幼稚園へ來ますとすべて目に映るものが皆めづらしいのであります、石板も始めて見た、石筆も始めて見たといふわけで、彼等は丁度私共が洋行したやうにいろ〳〵のめづらしさを經驗するのであります、それ故見るもの聞くものに就て「イゴモヤ」と言つて保姆に尋ねるのであります、それ故彼等の間には何時の間にか日本語を覺える興味が湧いて來るのであります。而して彼等は爭つて日本語の單語を採集しやうとするのであります、それ故私達の仕事は反響がありすぎる位で實に張合がいゝのであります。彼等は一日幼稚園へ來れば一日だけ改良されて行くのであります。彼等は何處へ連れて行つてもおもしろがり、めづらしがるのであります、日本語を覺えるといふことが一つの遊戯のやうになつて了つて、彼等は形を見ると同時にそれに伴ふ言葉を覺えるのであります。彼等は幼稚園が面白くて〳〵仕方がないのであります、それですから家庭で少し加減でも惡くならうものなら、明日幼稚園へ行くことが出來ないかと氣を拐んで「早く藥をのませて、明日幼稚園を休ませてくれないやうに」と家の人々に賴むさうであります。

以上の如き有樣ですから幼兒は三月も經つと、幼兒の用ゐる普通語を大抵理解するに至るのであります、尤も自分で話すことは未だ却々容易ではありません。一年經つとこちらで言ふ言葉は殆んど皆理解するやうになります、二年目にはもう彼等は日本語で發表を始めます。「先生、あの人がね」なぞと他人にいぢめられたことを訴へに來ます、「あの人がね」で一寸詰まつて了ひます、そこでこちらから「打つたの」と聞いてやります、さうすると幼兒は「え、打つたの」と言ひます、「よし、ひつぱつておいでなさい、叱つてあげますから」「ハイ」と言つて駈けて行きます。まア斯ういつた調子でこちらでチョイ〳〵補つて助けてやると何うやら話は出來るのであります。

幼稚園では斯うして口の用語を覺えさせます、小學校へ入つてから彼等は本の國語を敎へられるのであります。幼稚園を出て小學校へ行く頃には彼等の國語は授業をうけるに足るだけに進むのであります。

幼稚園を出て小學校へ行つた生徒は一週間に一度位づゝ學校の歸途に幼稚園へ立寄るのであります、而して時には成績表なぞも持つて來て私達に示します、彼等は何時までも私達に對する愛敬の情を失はないのであります。一體朝鮮人は師を尊むの念が厚く、弟子は先生のところへ米を持つて行つて養ふといふやうな習慣さへあつたのであります。それ故彼等がその出身幼稚園を自分の家の如くに考へて度々訪れて來る心根は實に可愛らしいのであります。

尙私の幼稚園に於ては內地で出來る幼年雜誌類を唯一の敎科書として居ります。幼兒はこれらの雜誌の挿畫を貪るやうにして見るのであります、而していろ〳〵の質問をいたします。言ふまでもなく私達は出來るだけ分り易く說明をしてやります、それから又國語敎授の目的を達する上に於て唱歌は實に侮るべからざる效を持つて居るもので

あります、それ故私の幼稚園ではあらゆる唱歌集、音樂雜誌と首つ引で、なるべく多くの唱歌を幼兒に敎へて居ります。しかし十分流暢に唱へるやうになるまでは次ぎの歌に進まないことに決めて居ります、彼等は誤まれば皆同じところの發音をあやまります。これは國語發音法の相違から來ることでありますから、斯る箇所は十分に訂正してやります、さうするとその次ぎからはもう誤らないのであります。

私の幼稚園の模樣は大抵以上のやうなわけでありまして、內地の幼稚園とは隨分違つた方法に依つて居るのであります、同じ目的に向つての保育ではありますが、事情が違ひますために方法手段に於ては內地の幼稚園に於ては尙多くの顧慮と躊躇を要すべきやうなことを行つて居るといふ傾きがあることは私達自身に於ても十分に之を認めて居るのであります。

以上の如き方法で幼兒を取扱ひますので、收容後一ヶ月位に於ける幼兒の變り樣は實に著しいものがあるのであります。

私達の事業は漸く緖に就いたばかりであります、前途はまだ遼遠であります、善良な園風を作るために未だ多くの努力が費されなければならぬことを思ふと私は言ひ知らぬ緊張を覺えるのであります。

朝鮮の家庭が幼稚園といふものに對して如何に不馴れであつたかといふことを證するお話をしてこの長いお話を終りたいと思ひます。始めて幼稚園の授業を始めた日にお辨當を持つて來るやうにと申してやりますと翌日はククスといふ日本のそうめんに類する食物を附添が持つて來ました、これが馬鹿々々しく嵩張りますもので、大きな廣蓋樣のもの丶上にククスを一ぱい積んで幼稚園へ持ち込まれた時は吃驚しました。それでお辨當は斯ういふ風にして持つて來て下さいと說明してやると翌日からはお辨當らしいお辨當を持つて來るや

うになりました。お辨當といへば分ることゝ思つてゐた私達が迂遠なので、朝鮮の家庭ではお辨當なぞと言つて一回分の食料を簡單に處理して持たして寄越すなぞといふことを夢にも知らないのでありました。

次ぎに失敗しましたのはお湯の用意でした。幼兒全體の數を見計つてこの位あつたらばと用意して置きましたお湯がお晝の時大不足を告げました、お湯を飲むこと、飲むこと、私達の想像が及びもつかぬ程彼等はお湯を飲むのであります、それ故彼等は頻りに小用に行きたがります、乃で私はお湯といふものはさう無暗と飲むものではありませんとよく說明して、お湯を飲む量を尠くして食事し得るものを賞めるやうな手段を取りました、さうしたら幸ひに彼等は漸次お湯を飲む量が尠くなりました、今では茶椀に二杯位で一度の食事を濟ませることが出來るやうになりました。

私はこの幼稚園に入ります前に、腹を立てまい、臭いと言ふまい、汚いと言ふまいと三つの誓ひを一人で立てたのであります。なぜならばこの三つを封じて置かない限りは私のやうな癖癖の强いものには兎ても勤らないと思つたからであります、而してこの三つを我慢して毎日自分の理想を行ふやうにして行きましたら、今では三つの誓ひは些の苦痛を伴はずに守られるやうになりました。軈がてこの誓ひの規を超えまいと恐れることなしに自分の仕事に從つて行ける日の來ることを私は願つて居るのであります。

女だてらに生意氣な申分かは存じませんが御國の爲めに幾分たりとも盡したいといふ衷心の欲求から、たとへ些かたりとも私相應の辛苦を嘗めて朝鮮幼兒の爲めに保育の曉鐘を撞くべく、數ならぬ身をこれまで捧げて來たといふことは、私の國家意識の上に多少の滿足を與へるのであります。特に朝鮮に於て敎育の第一階級たる保育の任に當つて居るといふことは私の身にとつて實に光榮ある職責と信じて居るので御座います。(完)